

西日本インカレ（合同研究会）2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報に記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）ドウシシャダイガク	フリガナ）セイサクガクブ	フリガナ）カウウラアキヒコ
同志社大学	政策学部	川浦昭彦 ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ）キンシャチ	フリガナ）イケノオキ	4	無
KINSHACHI	池野直樹		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール（具体的に使用するツールを明記してください）

研究テーマ（発表タイトル）

GAIN RECOGNITION OF SAKE ～コンビニから世界へ～

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

同志社大学のある京都市は伏見の月桂冠株式会社をはじめとする酒造会社が数多く存在しており、兵庫県の灘区に次ぐ日本酒の一大生産地である。京都の酒造会社は素晴らしい日本酒を作り続けているが、日本酒の国内市場は年々減少の一途をたどり、現在の日本酒消費量は 1970 年代の約 3 分の 1 にまで落ちこんでいる。この現状を打開し、日本酒の良さを海外に発信する術を模索することが今回のねらいである。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

日本酒の国内市場の現状は日本酒の生産がピークであった 1970 年代と比較して、約 3 分の 1 にまで縮小しており、その主な要因は①日本酒ファン層(60~70 代)の高齢化 ②若者の日本酒離れ(原因：生活様式の変化、酒の種類の多様化)の 2 つであるといわれている。

一方で、日本酒の海外市場は国内市場とは全く反対の動向を示しており、日本酒の輸出金額はここ 10 年間で約 2.7 倍であり、大きな注目がされている。(表 1)

また、訪日外国人旅行者の数は 2015 年の段階で 2003 年の約 3.8 倍となっており、この日本ブームは日本酒業界にとって海外展開への追い風となっている。(表 2)

表 1.(出典：国税庁 HP)

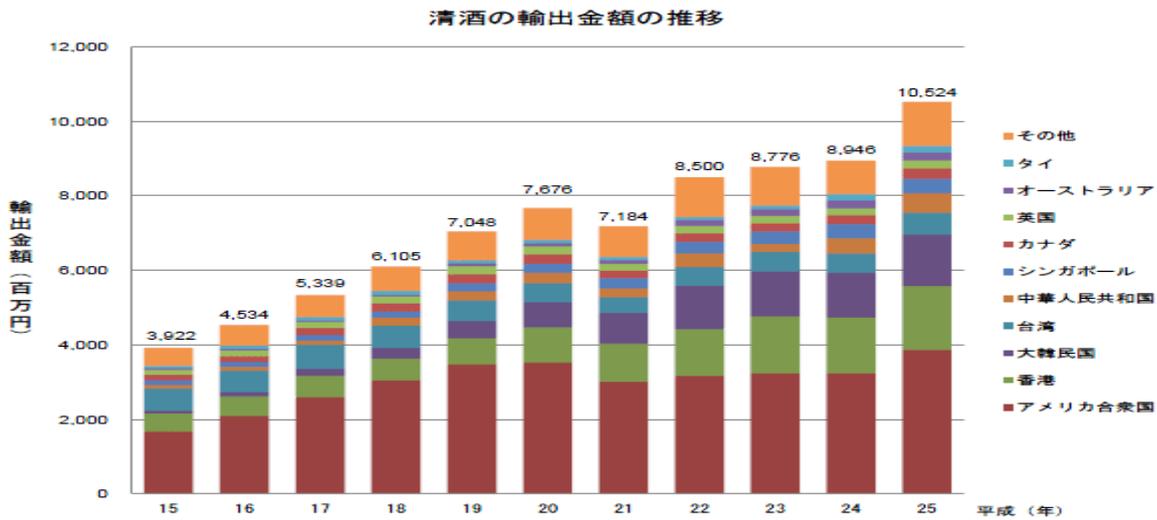
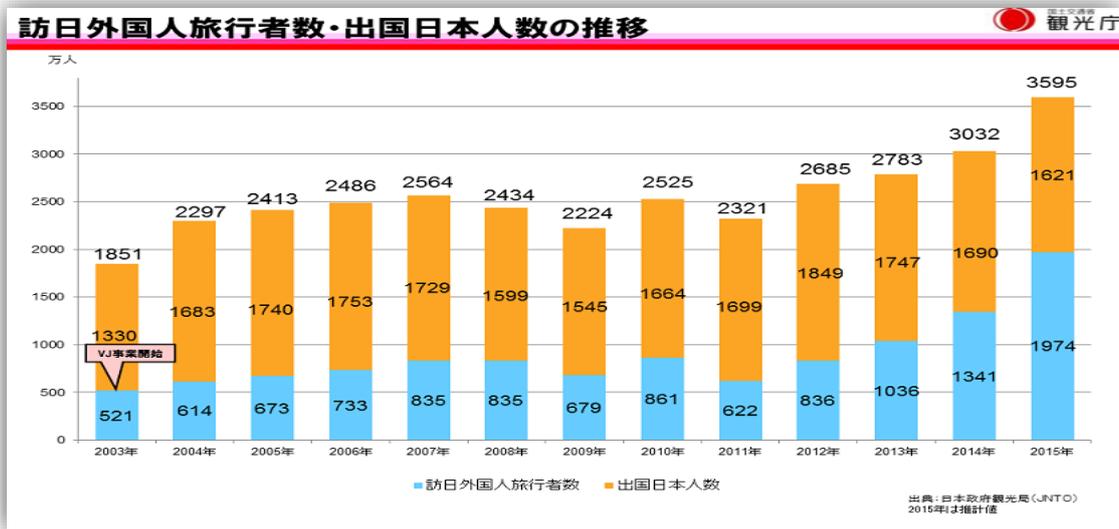


表 2. (観光庁 HP)



3. 研究テーマの課題

日本酒の輸出拡大のカギとなるアメリカを例に日本酒の海外進出における課題を考える。

- ・ 小売価格の上昇：酒類に関する厳しい規則や小売業者の市場支配力が強いために
関税や流通などのコストで日本酒の輸入品は生産者出荷額の約 4 倍
となってしまふ。
- ・ 販売場所の少なさ：日本酒の主な販売先は日本食レストランや日系スーパーマーケット
であり、現地のアメリカ人が日本酒を手にする機会は多くない。

上記 2 つの課題から外国人(アメリカ人)が現地で日本酒を口にする機会は少ないと考えられるため、日本酒の認知度を向上させることが課題である。

4. 課題解決策 (新たなビジネスモデル・理論など)

セブンイレブンでは 2017 年以内に全店舗イートインスペースが設置される予定であり、今後コンビニのイートインスペースの増加が見込まれる。よって、コンビニのイートインスペースを活用し、京都市内でも特に外国人観光客の多い観光名所付近の店舗などに限定して、利き酒マシンを設置することで京都にある酒造の銘柄を外国人旅行者に試飲してもらうことを提案する。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

- ・京都市内にて外国人を対象とした日本酒に関するアンケート調査
- ・株式会社小林順蔵商店様へのヒアリング調査
- ・月桂冠大倉記念館への訪問およびヒアリング調査 など

6. 結果や今後の取り組み

今回、日本酒について研究していくなかで、酒造メーカーは外国人をターゲットとした日本酒イベントに協賛するなどさまざまなインバウンド対応をしていることを知った。また一方で、日本酒の国内市場では生き残りをかけた販売戦略を展開している段階であり、日本酒業界は再興と衰退の岐路に立たされていると感じた。

今後の取り組みとしては、コンビニで日本酒の利き酒マシンを設置することはコストなどを考慮しても、実現可能であるのか酒造メーカー、コンビニの両方の立場から検討したいと考えている。

7. 参考文献

国税庁 [https://www.nta.go.jp/\(2017/10/15付\)](https://www.nta.go.jp/(2017/10/15付))

観光庁 [http://www.mlit.go.jp/kankocho/\(2017/10/5付\)](http://www.mlit.go.jp/kankocho/(2017/10/5付))

SAKE TIME [https://www.saketime.jp/\(2017/11/09付\)](https://www.saketime.jp/(2017/11/09付))

日本酒造中央会 <http://www.japansake.or.jp/sake/index.html> (2017/11/09付)

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、翌年3月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず使用するツール名をご記入ください。企画シートにご記入が無い場合は、発表当日の使用はできません。あらかじめご了承ください。

↑ここまでを4ページ以内に収めて、提出してください↑